

三重県ユニセフ協会機関誌

みえユニセフレター

unicef 
unite for children

Mie Unicef Letter 2015.5

Vol.

6

会長、副会長が交代しました。



三重県ユニセフ協会会長 駒田 美弘
(三重大学学長)

平成27年4月に三重大学の第12代学長に就任いたしました。前任の同大学医学系研究科小児科教授の時代には、アフリカ、特にタンザニア、ザンビア、ガーナ、エチオピア等への小児科分野での医療協力に、多くの同僚の医師とともに携わった経験があります。その交流が基礎となって、現在では開発途上国の大学と三重大学との間で学術協定が締結され、三重大学における医学教育の大きな特色となっています「開発途上国における海外臨床実習」の実施につながっています。この国際教育カリキュラムにより、医師を志す医学生たちは、日本では得られない貴重な体験から多くのことを学んでいます。

三重大学では、自然と共生するグローバル・キャンパス、教育研究環境のグローバル化、世界から評価される教育研究水準の達成を主なビジョンとして、国際貢献活動に取り組んで行きたいと考えています。そして、様々な分野の国際貢献活動に参画できる逞しい人材の育成、あるいは海外からの多様な留学生の受け入れを通して、三重県ユニセフ協会の行っておられます事業に寄与させていただければと思っています。

ユニセフ活動を通じて、世界の多くの子どもの健康と幸せな生活が守られますことを祈念いたしますとともに、三重県ユニセフ協会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



三重県ユニセフ協会副会長 早川 和生
(三重県立看護大学学長)

平成27年4月に三重県立看護大学の学長兼理事長として新しく着任いたしました。前任の大阪大学医学部保健学科には教授として21年間勤務し教育と研究に携わって参りました。この大阪大学在職中は、学生達には海外留学を推奨し、将来は国際保健の分野で活発に活動し、地球規模で各地域の健康問題や貧しい生活に苦しむ人々の様々な生活上の課題に取り組むことができる専門家になることの重要性を講義で話してきました。幸いに欧米の大学院に進学した学生達の中にはWHOなどの国際機関に就職しグローバルな社会貢献を目指す者がおり、こうした人材が育ったことは誠に幸いでした。

今般、三重県ユニセフ協会副会長の任につくことになり大変光栄に存じます。今後は三重県立看護大学においても三重県内はもとより地球レベルでも各国の地域社会において住民の健康問題に取り組むことのできる若い看護専門職の人材育成を通して三重県ユニセフ協会の更なる発展に貢献できるよう努力したいと思います。

団体賛助会員さま

(順不同 2015.5.1 現在)

井村屋グループ(株) JA グループ三重 生活協同組合コープみえ 東海コープ虹の会
日本トランスシティ(株) 万協製薬(株) (株)百五銀行 (株)三重銀行 三重交通(株)
三重県生活協同組合連合会 三重大学生活協同組合 (いつもご支援ありがとうございます。)

活動報告 (2014年9月～2015年4月)

ユニセフ ラブウォーク

ユニセフ ラブウォークとは

健康で歩けることに感謝しその気持ちを募金というかたちにして、ユニセフを通じて開発途上国のこどもたちの健康に役立てられる、ユニセフ・ラブウォーク。

ユニセフが世界各地で実施している保健、栄養、水の衛生、教育への支援など、子どもたちの命と未来を守る活動に活用されます。

2014年10月18日(土) 三重県総合文化センター周辺
参加者 15名 募金額 3,600円



秋深まる中、五十鈴川駅から伊勢神宮内宮まで歩き、伊勢神宮内宮を神職さんにご案内頂きながら散策し、御正殿にお参りしました。神宮の奥深いお話も聞けて良かったとたいへん好評でした。神聖な場で改めて、世界中のこどもたちの平和を願ってきました。

(ボランティア・松岡)

2015年4月19日(日)
ラブウォーク松阪(芝桜・弥勒寺)
主催 コープみえ 松阪エリア会
参加者 46名 募金額 12,857円



ユニセフ 募金活動

ユニセフハンド・イン・ハンド募金 (11月～12月) 「誰もが大切な“いのち”」

三重県下 11 会場
参加ボランティア延 97 名
募金額 128,874 円



2015年3月1日(日) 「尾鷲のサンマが世界の子どもたちを救う」(サンマ200尾ふるまい)

場所 御在所ロープウェイ
募金額 14,708 円



手をあらおう手をつなごう 世界手洗いの日（10月15日）

手をあらって、手をたたいて、楽しく、笑いながら、そのつながりを世界に広げていく。

10月15日は、世界手洗いの日です。

手洗いは、誰にでもできる衛生のいちばんシンプルな、でも実はとても大切な取り組み。

途上国の子どもたちも、日本の子どもたちも、世界のみながいっしょになって、手をあらう、ということを通して、手をつなぐ！ひとつになる！そんな日です。

2014年10月15日（水）三重郡菰野町菰野幼稚園

園児 200名

ペープサート「バイキンマンとセッケンマン」、

手洗いダンス、ユニセフ紹介



子どもたちも
ノリノリ

2014年11月26日（水）清泉愛育園

園児 71名 手洗いパフォーマンス



こんにちは！ 皆さん、手洗い上手に出来ましたね、日本には手洗いの為のお水も石けんもたくさんありますね・・・タオルも・・・そうタオルもありますね、でも世界にはお水やせっけんやタオルが足りない国もまだまだたくさんあります。・・・アフリカ！北海道！・・・北海道は日本ですね、わたしたちユニセフはそういった国の子どもたちに、お水やせっけんやタオルを贈るお仕事をしています。病気になった時にはお薬も送っています。皆さんもインフルエンザに気を付けて手洗いをしっかりしましょうね、今日はどうもありがとう。（ボランティア・早川）

本年度も昨年に引き続き、手洗い活動を実施しました。紙芝居「ありがとう セッケンまん」、ペープサートを使っ
ての劇「手洗いマン VS バイキン仮面」&「世界手洗いダンス」、ユニセフ活動の話、水と衛生、水瓶についての説明を行いました。

1歳児から年長児まで、しっかり話を聞いたり、紙芝居などを見たりしながら、手洗いダンスも楽しむことができました。水瓶を持ち上げる体験も行い、重い！という表情をしながら、一生懸命、水瓶を持ち上げる姿がありました。

手洗い場での実際の手洗いでは、きちんと石鹸を泡立て、正しく手洗いをする素晴らしい園児さんたちで、ボランティア一同は感激いたしました。清泉愛育園の先生方のご協力に感謝申し上げます。

石鹸で正しく手を洗い、流水でしっかり洗い流すことによって、手に付着した細菌やウイルス 99%が除去されます。こんなに簡単で安価な病気や感染の予防はあります。今後も、「世界手洗いの日」活動を広めていきたいと思っています。（ボランティア・中野）

ユニセフ 東ティモールスタディーツアー（10月26日～11月2日）

2002年に独立したアジアで一番若い国「東ティモール」面積も小さく、人口は約120万人、その半分以上が子どもで占められています。赤ちゃんは18人に1人が誕生時に命を落とします。出産時のお母さんの死亡率も高く、保健・栄養面でのケアが必要です。視察先は、エルメラ県、アイナロ県それぞれのコミュニティ保健センター及びアイナロ県内の病院、コミュニティのボランティアからなる母親支援グループの活動等を視察しました。（事務局長・吉田）



ご協力ありがとうございました

2014年度に
三重県ユニセフ協会へ
お寄せいただいた
募金総額は3,787,840円、
外国コインは28.6kg
です。

外国コインの仕分け



お知らせ

頒布活動へのご協力
ありがとうございました。

ユニセフ自身によるカードやグッズの製作・頒布は2014年末を以って終了いたしました。尚「ユニセフ支援ギフト」募金事業は、継続して行います。



170万人の
ネパール子どもたちに、
命を守る支援を

©UNICEF/_NYHQ2015-1015/Nybo

緊急
URGENT

ネパール大地震緊急募金

2015年4月25日午前11時56分、ネパールの首都カトマンズをマグニチュード7.9の地震が直撃。大型地震とその後も断続的に続く余震は、5,000人以上の死者を出し、広範囲にわたって建物が倒壊するなど、ネパールに多大な被害をもたらしています。

人口のおよそ半分が18歳未満の子どものネパールでは、深刻な被害と子どもたちへの影響が心配されています。(2015年5月1日時点)。

ユニセフは、緊急支援活動に必要な今後3カ月分の資金として、総額5,035万ドル(約60億円)の支援を国際社会に呼びかけています。

ネパール地震の被害を
受けた子どもたちを
支援するための
「ネパール大地震緊急募金」の
ご寄付にご協力ください。

29トンの支援物資を輸送

ユニセフのコペンハーゲン物資供給センターで物流担当チーフを務めるラジュ・シュレシュタは、次のように話しています。「ネパールの子どもの生活は、一変してしまいました。多くの人々が命を落とし、家々は倒壊し、ネパールにいる私の家族や友人たちもこの災害に巻き込まれています。病院では、ベッドも医薬品も不足しています。ユニセフは診療所として使用したり、支援を必要としている子どもたちがまず身を寄せることのできるテントを最優先で送りました。また、子どもたちやその家族が安全な水を手に入れられるよう、浄水剤も発送しています」

ユニセフは日頃からネパール国内の倉庫に30トンの支援物資を備蓄しており、そのおかげで地震から数時間以内に浄水剤、経口補水塩、衛生キットなどの配布を始めることができました。それらの支援によって、安全な水が手に入りにくい状況下でも汚水に起因する病気を回避することが可能となります。また、カトマンズ周辺には十数カ所の仮設避難所が次々と設置されており、ユニセフはそのすべての避難所に水や衛生物資を運んでいます。(日本ユニセフ協会HPより)



地震で被害を受けた自宅の前でたたずむ11歳の少年。

©UNICEF/NYHQ2015-1068/Chen

今後の主な活動

- 6月 フレンテまつり、ユニセフチャリティーゴルフコンペ
- 7月 第三銀行ロビーパネル展、ユニセフ支援物資公開
- 8月 平和のための戦争展、他

ボランティア募集中

あなたの時間を少しだけ世界の子どもたちのために分けてくださいませんか。

ユニセフ活動へのお手伝いをお願いします。ホームページからも登録できます。

三重県ユニセフ協会

〒514-0003 三重県津市桜橋2丁目135 ハイツフジタ1F TEL 059-273-5722 / FAX059-228-9915

Email: mie-unicef@sweet.ocn.ne.jp HP: <http://www.unicef-mie.jp>

事務所開設日: 月・水・金(10:00~17:00)